

神社の杜(四十二)

御岳ビジターセンター

片柳 茂生

豪雪の恵は・・・

講中の皆さんにも大変な被害をもたらしたあの大雪。山の古老に聴いても、あのような大雪は記憶にないとのことでした。御岳山では、二月八日の雪とその翌週の雪を合わせて約150cmも積もり、吹きだまり等では3m位積もった箇所もありました。

幸いにも御岳山では、神社は元より御師の家が倒壊したという被害もなく、また森林の木々が数多く折れたといった事もありませんでした。青梅市で孤立集落が一カ所とニュースでも度々報じられていましたが、その一カ所が当然この御岳山である事は、講中の皆さんであれば誰でも想像できたでしょう。

あの大雪で改めて感じたこと、それは御岳山の住民達の結束の強さと、除雪を買って出してくれたボランティア



の皆さんの心遣いでした。

住民は十日間も山に閉じこめられ、その間毎日、大人の男性はもちろん、女性や子供そして七十歳を過ぎた高齢の人まで腰をいたわりながら黙々と毎日雪と戦っていました。自宅の除雪は後回し、みんなが使う道路を一致団結して除雪したのでした。しかしながら、住民達だけでは集落内の道路の除雪が精一杯でした。滝本から続く参道やケーブルの線路、そしていつもならすぐに行く神社の階段。それらをたくさん

のボランティアの人達が除雪してくれました。その援助がなかったならば、さらに一週間は孤立状態が続いたところでしよう。

の大雪が山に住む生き物たちにもかなりの影響を与えたことと思います。たとえばシカは、あまりに多い積雪では動けなくなり、死んでしまうという話があります。

近年御岳山周辺ではシカが増え、樹木や草に被害が目立つようになってきました。特に懸念されているのが、夏にきれいな花を咲かせるあのレンゲシヨウマです。今やレンゲシヨウマは御岳山の観光には欠かせない存在になっていますが、そのレンゲシヨウマをどうもシカが食べているようなのです。御岳山では現在、シカの駆除は行われず、見守っている状態です。そして、レンゲシヨウマを守るにはどうしたらよいか、検討を始めていた所です。

あの大雪でたくさんの方達が被害に遭い、そして苦しい生活の営みを強いられました。でも、もしシカの数が少しでも減少してくれたのであれば、あの大雪は、神苑に育つレンゲシヨウマにとって御嶽大神のご加護だったのかもしれない。

表紙写真 鈴木 新吾

「新神楽・篝火」

暗闇の中で、ジツと炎をみつめる・その揺らめきの中に何がみえますか・・・

あとがき

ある方に、人生とは何でしょうかと問われました。人生とは感謝の日々ではないかと思っています。感謝をもって生きる心を持っていると、自ずと感謝される喜びも知ることが出来るはずです。自らが与えることによって、頂ける事もあるでしょう。人が生きている、自分が生きているという事を日々思いながら生きていけたら、すばらしいと思います。俳句選者金子先生、中清戸講並木様、ビジターセンター片柳様には、玉稿をありがとうございます。また、今号より、講中を訪ねてと題し、当社に永年に渡り崇敬を下さる御講中を広くご紹介させて頂けたらと思います。

平成二十六年三月二十九日発行
 (年二回発行・非売品)
 編集 武蔵御嶽神社

TEL 〇四三(七) 八五〇〇
 FAX 〇四三(七) 九七四一

印刷 (株)成和印刷
<http://www.musashinakejinja.jp/>